

し、
〔難波江〕暴瀉病

病名

先ヅ霍亂ト云ガ穩也、尋常ノ霍亂ノ、其邪中焦ニアリテ、吐瀉齊ク發スルノミ異也、尋常ナルハ腹痛アルニ、コレハ腹痛モセズ、腹痛スルモアレド、中ノ一ナリ、泄瀉數行ノ後倏忽ノ間ニ、陽氣虛脱シ、毒氣上攻ス、

治法

參附トイヘド、回挽シガタキアリ、早く用フレバヨシ、遅ケレバ激ス、半夏黃連ヲ組合セテヨロシキコトアリ、

病家心得

腹鳴水瀉アレバ、一行ニテモ衣被ヲ厚ク覆ヒ、炒鹽ニテ腹中ヲ熨シ、重キハ手足ヲ温石ナドニテ温メ、熱粥ヲ喫セシメ、微發熱微發汗スレバ、氣宇舒暢、瀉從テ減ジ、吐ヲ發スルニ至ラズシテ愈ユ、若飲食動作、常ノ如キヲ以テ輕視スレバ、瞬息ノ間、惡症蜂起、上工モ手ヲ束ヌルニ至ル、

以上、山田昌榮ノ說也、

早手

〔鹽尻 三十五〕我尾府下の小兒暴瀉の症に懸り、急に死する者多し、夏は尤甚し諸醫大概手を束て治療の法なきがごとし、食厥氣厥の類示多は暴瀉に混じ、見分る事を誤るもの少からず、去年我府に來る朝鮮の醫官奇斗文に府下の醫某是を問、彼曰、此症温熱を解するを専らとす、宜く寒冷の藥を以て療すべしと、我國専ら温補する者と大に反せり、彼此病を慥に不知かと言しに、長崎より來り住せる醫者が曰、彼誤るべからず、水土に依て療治方等しからず、そは西國には暴瀉氣厥の症有事少也、其治方多くは寒冷を以てす、當國の水土を考ふるに、土氣甚薄く水氣漏安し、是に感